

地歴公民(日本史) 慶應義塾大学 商学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式59問(語句選択59問) 記述式19問 短文記述1問 計79問

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数3題は変化なし。小問数は変化なし。年代整序問題・正誤問題は出題されなかった。論述問題は短文記述形式が1問(昨年度は2問)。

出題の特徴

昨年度はテーマ史1題、近世1題、近代1題の時代構成で、戦後史は出題されなかった。しかし、本年度は中世1題、テーマ史1題、戦後史1題の構成であった。年度によっては時代ごとの大問の構成のこともあり、時代の配分が年度ごとに変化するのが、商学部の特徴である。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 記述 短文記述	鎌倉時代の仏教	平易な問題ばかりの大問なので、ここで高得点を獲得したい。問2(c)の「公案問答(禅問答)」はやや難。問1(17)(18)59「源頼家」は58「源実朝」と迷っただろう。問3(1)「一向一揆」はややあいまいな出題である。	やや易
II	語句選択 記述	古代～近代の貨幣史	慶應義塾大学の頻出テーマの一つであるので十分に対策はできていたと思う。少しでも取りこぼしを減らしたい。問1(45)(46)68「無尽」は消去法で解答をしようがやや難。(49)(50)44「島井宗室」はやや難。	やや易
III	語句選択 記述	現代の日米関係と経済情勢	問1(117)(118)67「パリ協定」、問2(a)「全国総合開発」、(c)「輸入課徴金」、(d)「輸出自主規制」は難。問1(81)(82)18「アイゼンハワー」、(87)(88)42「白黒テレビ」、(97)(98)28「大平正芳」、(99)(100)77「レーガン」、(103)(104)44「鈴木善幸」、(105)(106)63「日本国有鉄道」、(107)(108)61「日米構造協議」、(111)(112)66「橋本龍太郎」、(113)(114)30「小渕恵三」はやや難。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書範囲を超えた設問が見られることもあるが、それには固執せず、教科書の範囲内で解ける問題を取りこぼさないように学習することが肝要である。特に、商学部は記述式問題が多いので、歴史用語を正しく書く練習を欠かさないようにしたい。政治・社会経済・外交・文化を満遍なく学習したうえで、頻出テーマである社会経済史・文化史については、少し詳しく確認しておくとうい。